

下川町について

人口：3,400 人（平成29年4月現在）

面積：644.2 km²

土地利用割合：山林 91%、農地 5.5%

主な産業：林業、林産業、農業



森林未来都市ビジョン



森林総合産業の構築



柏市について

- ・人口: 約420,000人
- ・面積: 114.74km²
- ・主な産業: 小売業、飲食業
- ・名産品: かぶ (生産量全国1位)
- ・観光地: 手賀沼



柏駅前の商業集積地



名産品のかぶ

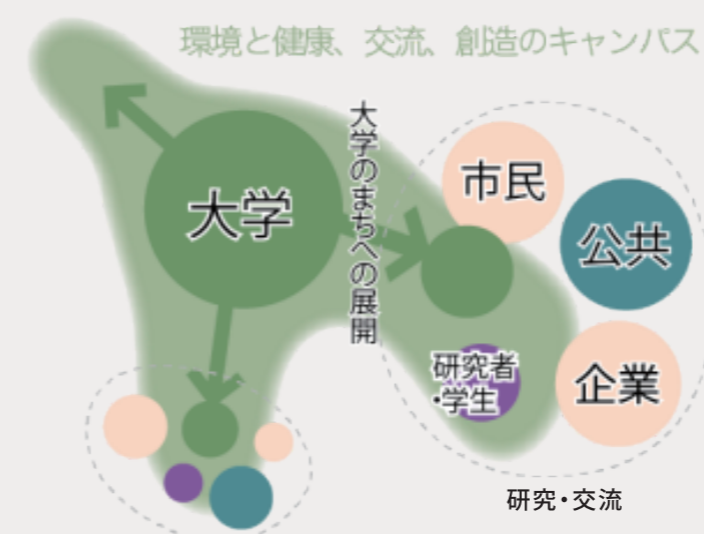


手賀沼(水辺環境)

柏の葉国際キャンパスタウン構想

構想の理念 “大学とまちの融和”

まち全体が大学のキャンパスのように緑豊かで質の高い空間であり、知的交流の場となるまちを目指す。



公・民・学連携のまちづくり拠点【UDCK】



柏の葉キャンパス地区



UDCK外観



公共空間を活用した賑わいづくり
(マルシェコロール)

■ 柏の葉のまちづくりの基本的な考え方

従来からのまちづくりの主体である公共に加え、民間の推進力、大学の先端の知を最大限に活かした公・民・学連携による《次世代型のまちづくり》を目指す。



■ 公・民・学連携のまちづくりの仕組みと組織

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK)

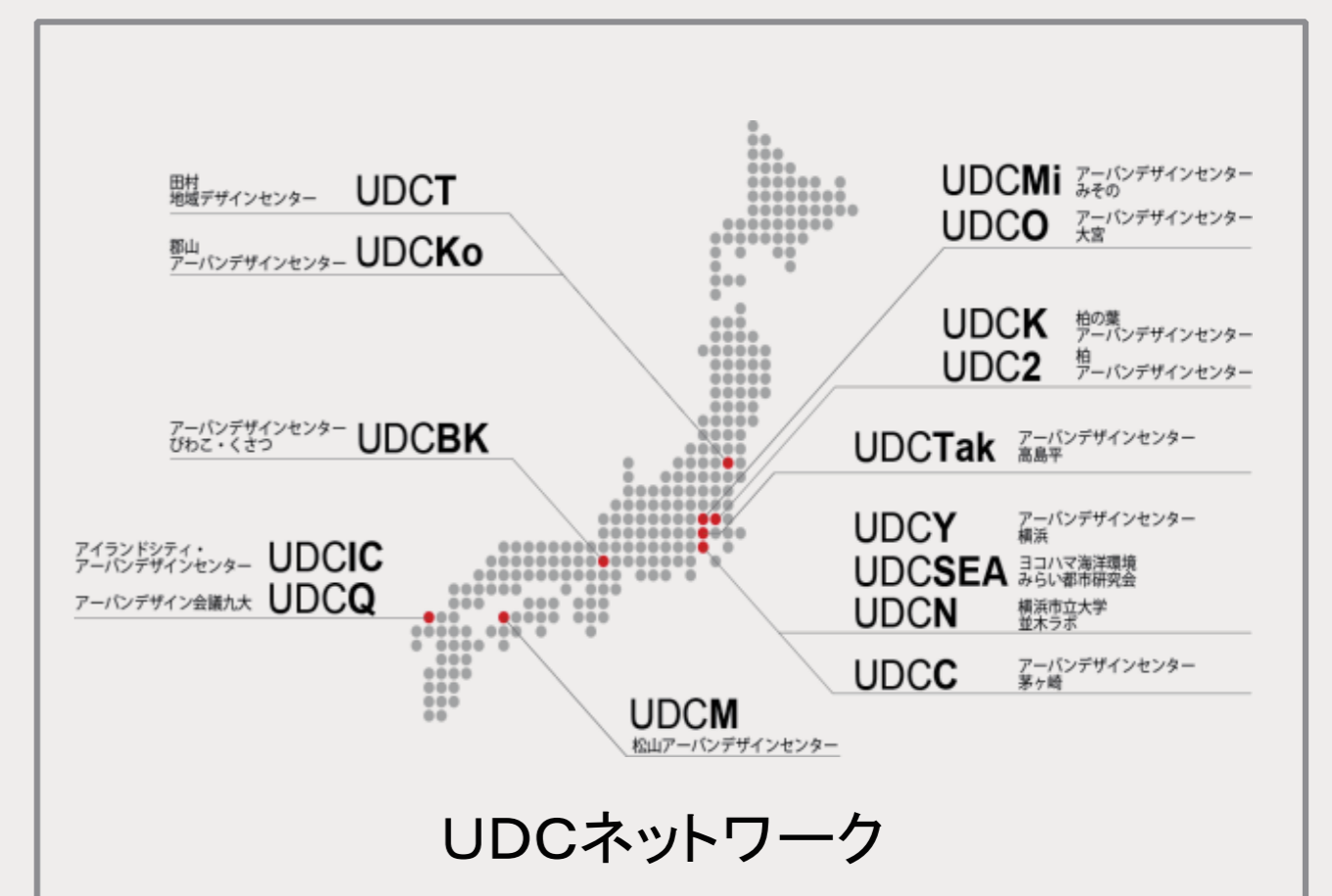
将来ビジョンの共有

柏の葉
国際キャンパスタウン構想

共同で運営するセンター
による活動の連携と推進

柏の葉
アーバンデザインセンター

アーバンデザイン
センターの全国展開



横浜市について

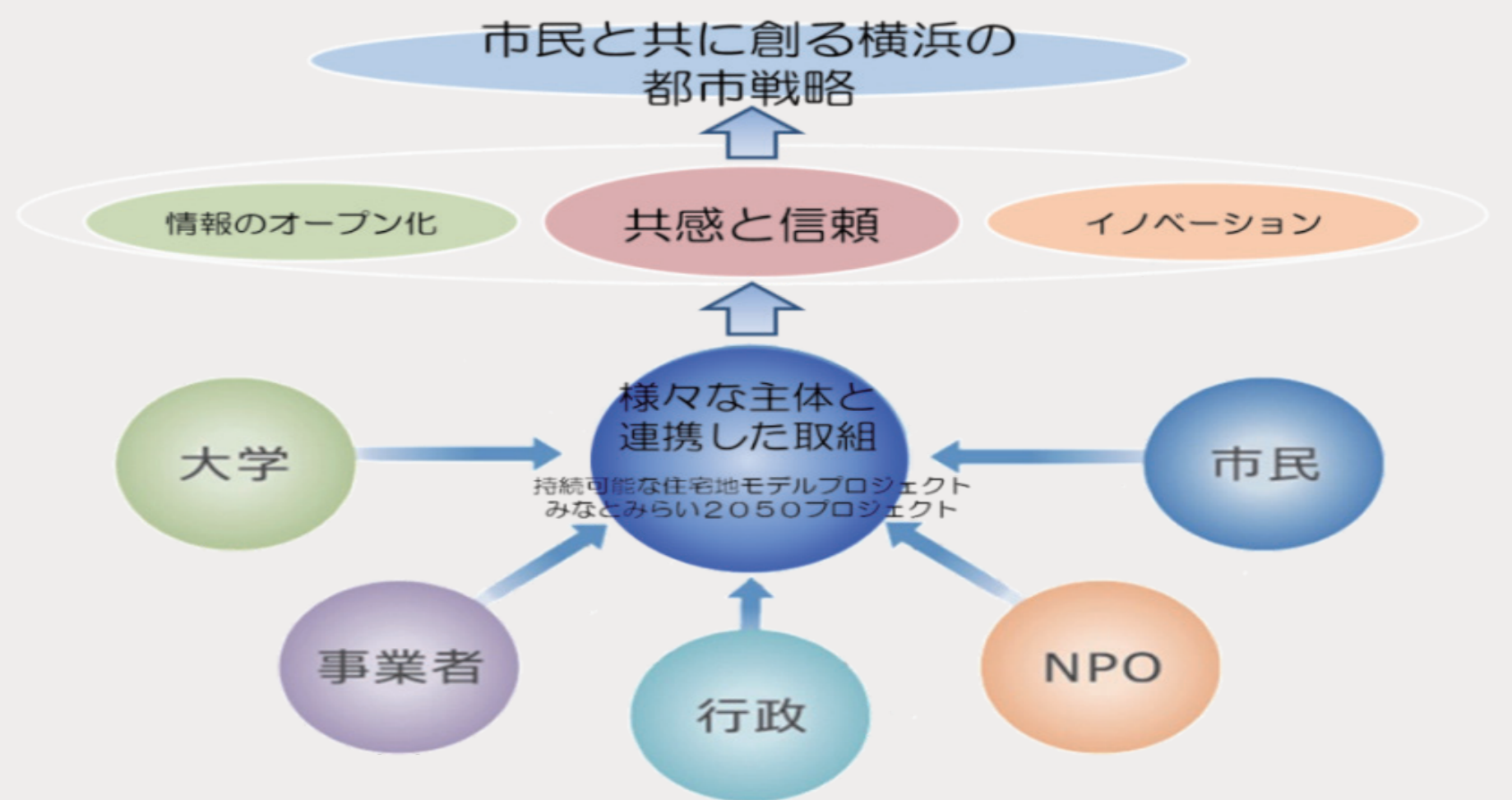
- ・人口：約373万人、面積：約435km²
- ・主な産業：サービス業、卸・小売業、製造業



- **低炭素**で途切れないエネルギー、上下水道、廃棄物収集のネットワーク
- **医療・介護・福祉・子育て**の切れ目ない連携
- **文化芸術・成長産業**の創出、機能的なビジネス空間
- **自然環境(水・緑)**と地勢に恵まれた生活空間

行政、市民、企業等の役割

➤ **あらゆるステークホルダーと連携し、都市課題の解決に向けた分野横断的な取組を推進**



地域特性に応じた「まちづくり」

都心臨海部と郊外部において、各地域の特徴を生かした**取組**を推進

郊外部 既存住宅地の住環境の維持

地域・民間事業者・行政・大学等の多様な主体が連携しながら、高齢者・子育て支援や住宅地等再生などの**地域課題**の解決に取り組み、持続可能な魅力あるまちづくりのモデルを創出。

都心臨海部 環境ショーケースを目指したまちづくり

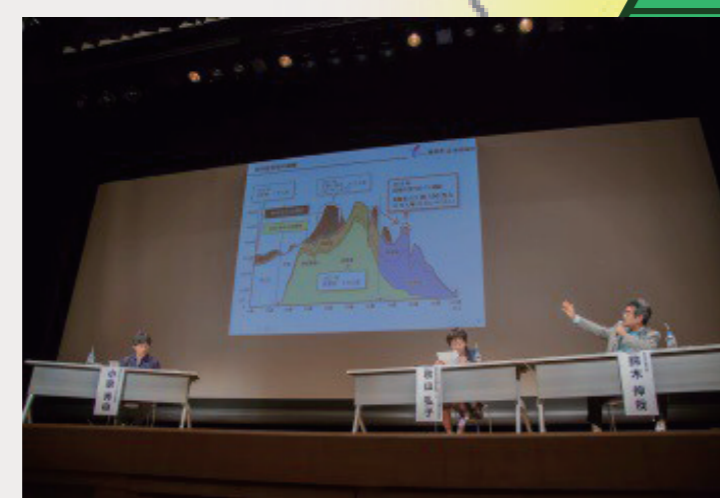
都市機能が集積する「みなとみらい21地区」において、地区全体の自立分散型エネルギーインフラの実証や、多様な次世代交通の体験など、スマートなまちづくりに向けた**環境ショーケース**として国内外へ発信。

都市農業を活かした地産地消イベント



(相鉄いずみ野駅周辺)

郊外住宅地における住民主体のまちづくり活動

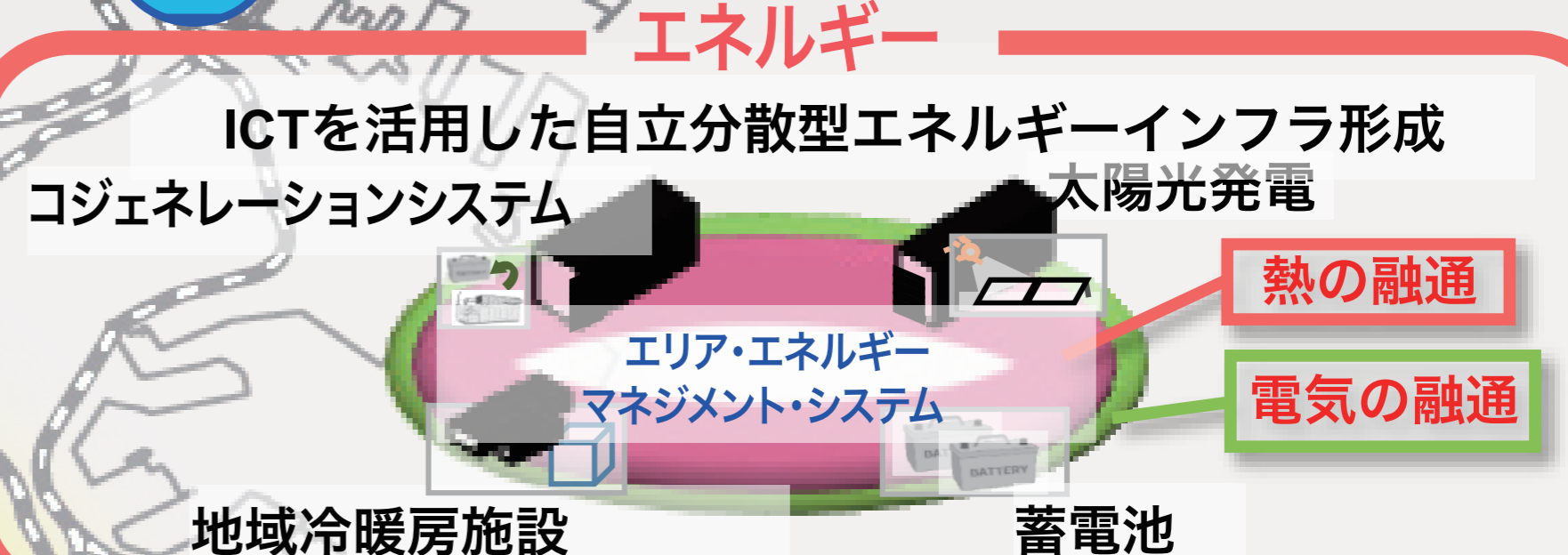


次世代郊外まちづくりフォーラム (たまプラーザ)

団地の空き店舗施設の活用

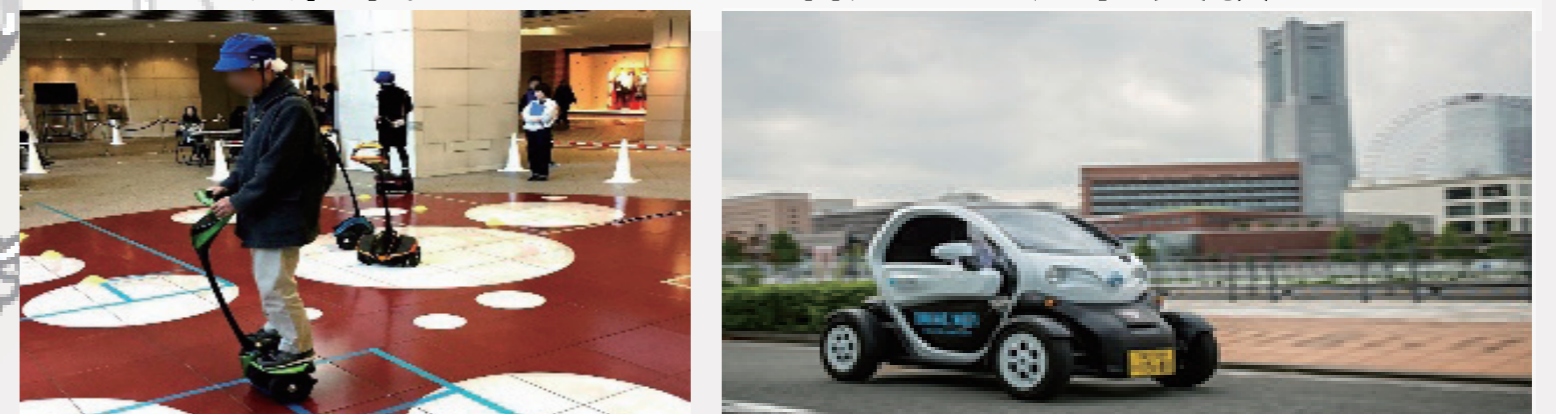


地域活動拠点 (洋光台)



エコ・モビリティ

次世代モビリティを活用した走行実験

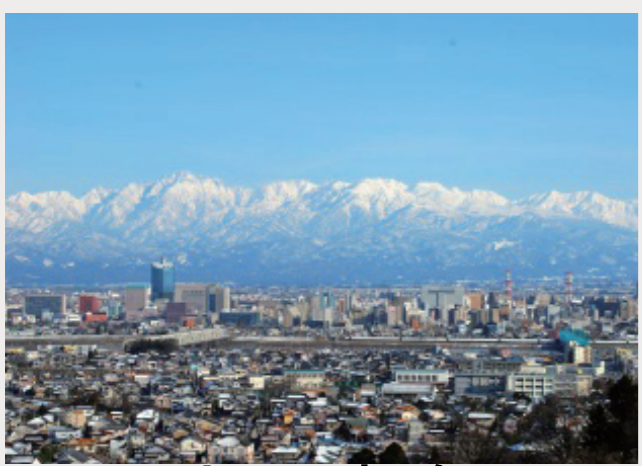


上記の施策と関連するSDGs(例)



富山市について

- ・人口: 418,686人 (H27国勢調査)
- ・面積: 1,241.77km²
- ・地域特性: 水深1千mの「海の幸の宝庫」
富山湾から標高3千m級の立山連峰まで
標高差4千mの自然豊かな多様な地勢



立山連峰



ますの寿司



ホタルイカ

目指す都市像

地方都市が抱える課題に対応できる
一つの未来像を提示

1. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり
2. 質の高い魅力的な市民生活づくり
3. 地域特性を十分に活かした産業振興
4. 富山型モデルの普及展開によるブランド構築

持続可能な都市を創出することにより、
「誰もが暮らしたい・活力あるまち」を実現

LRTネットワークの形成

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



LRTネットワークの形成により、過度に車に依存したライフスタイルを見直し、歩いて暮らせるまちづくりを進めることで、環境や超高齢化の課題にも対応した持続可能な都市を実現

市内電車環状線 (H21.12開業)



新幹線高架下へ乗入れ (H27.3開業)



将来LRTネットワーク図



富山ライトレール (H18.4開業)



市内電車



北九州市について

- ・面積: 491.95km²
- ・人口: 951,336人
- ・世帯数: 428,862世帯
(平成29年8月1日現在)



住みよいまち・北九州市

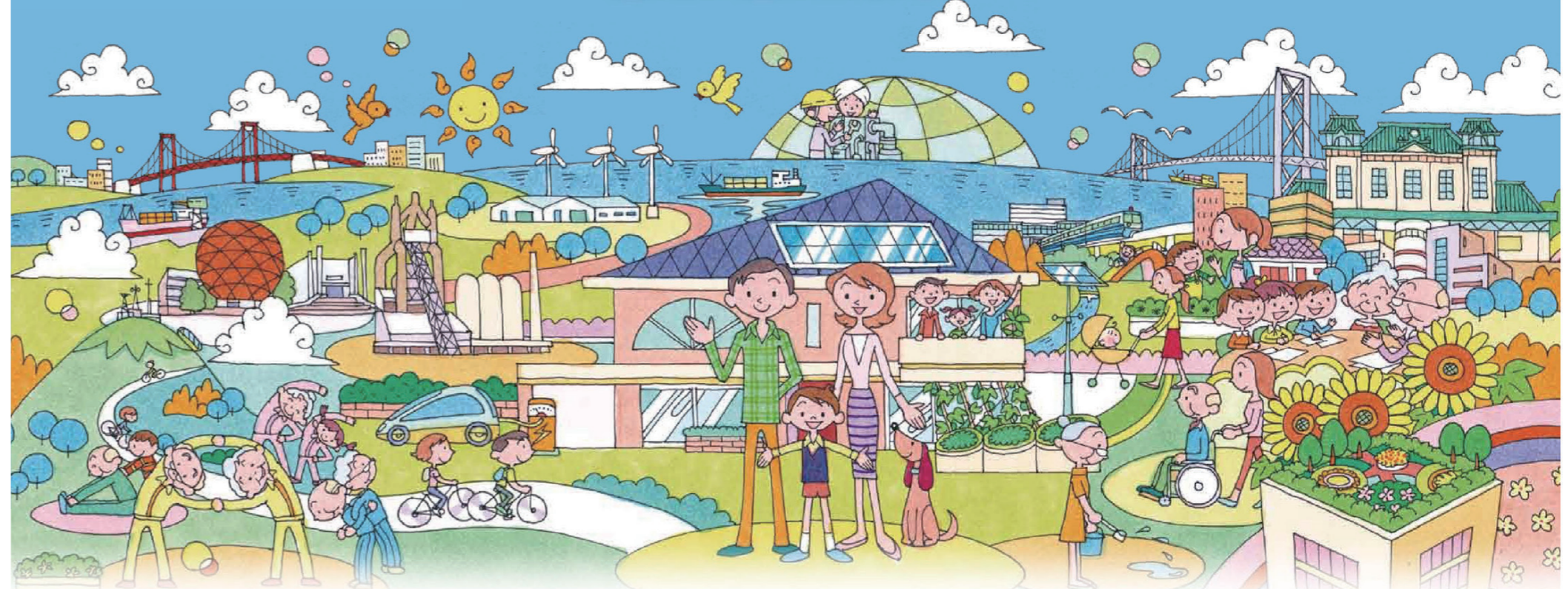


環境未来都市 北九州市

北九州市環境未来都市ビジョン

地域や都市（まち）の中で人が輝く、
賑わい・安らぎ・活力のあるまち

～公害を乗り越えた経験と持続的に創造するイノベーションを活かして～



環境国際協力



北九州市地域エネルギー拠点化推進事業

多様なエネルギー供給の 総合ショールーム【響灘地区】

バイオマス発電



風力発電適地

風力発電

風力発電

太陽光発電

火力発電適地

石炭輸入基地

太陽光発電

風力発電

火力発電適地

響灘南岸壁

太陽光発電

太陽光発電

洋上風力発電



メガソーラー



ひびきコンテナ
ターミナル

LNG
輸入基地

環境・エネルギーのトップランナーとして
低炭素で安定したエネルギー供給を推進

- 7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに
- 8 働きがいも
経済成長も
- 9 産業と技術革新の
基盤をつくろう
- 11 住み続けられる
まちづくりを
- 13 気候変動に
具体的な対策を



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

気仙広域について

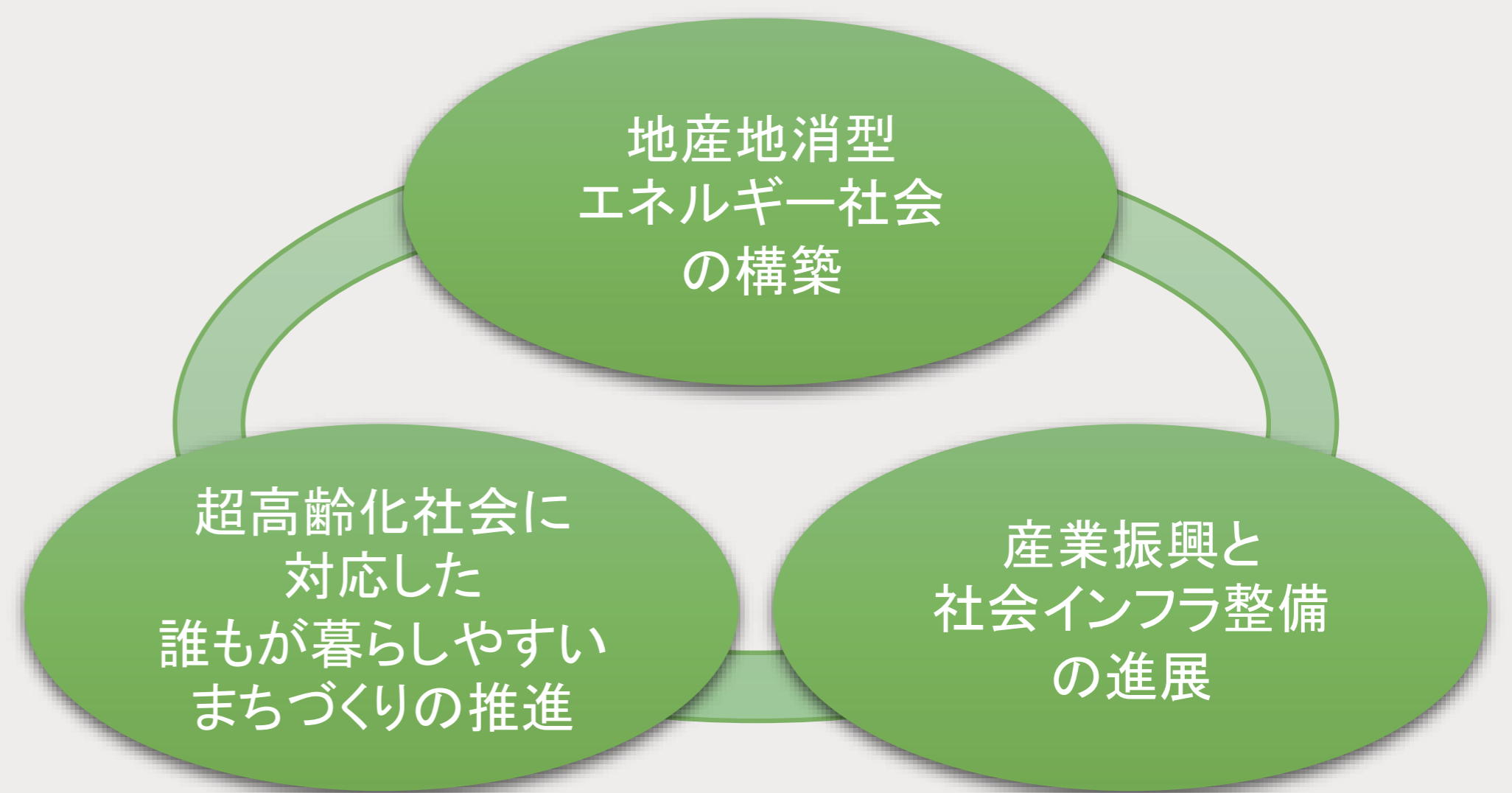
- ・人口: 約63,000人
- ・面積: 890.04km²
- ・特徴: 古くから相互に連携・協力してきた、沿岸部の大船渡市と陸前高田市、林業が盛んな住田町で構成する広域圏。



左: 大船渡市 碁石海岸
中: 住田町 (上) 種山ヶ原 (下) 滝観洞
右: 陸前高田市 奇跡の一本松

ビジョン

気仙広域環境未来都市として
目指す地域の将来像

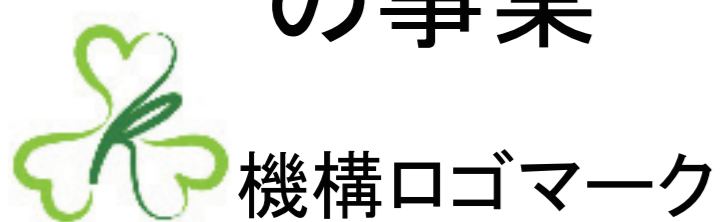


医療・介護等の先進的連携モデルの構築

【事業推進母体】 一般社団法人未来かなえ機構 (平成27年4月設立)

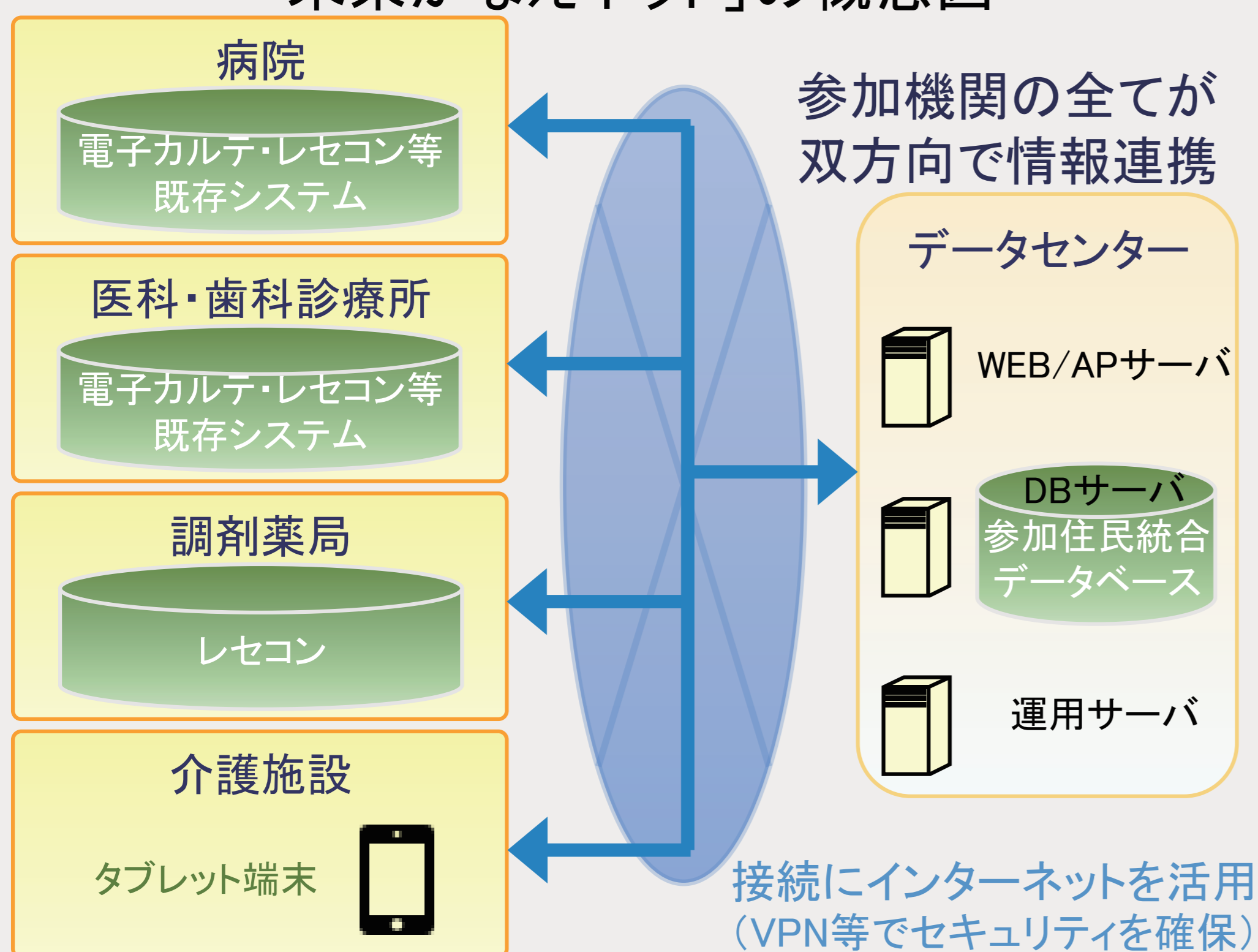
医療・介護・保健・福祉 各分野の関係者(医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護施設、行政など)で組織。

未来かなえ機構
の事業

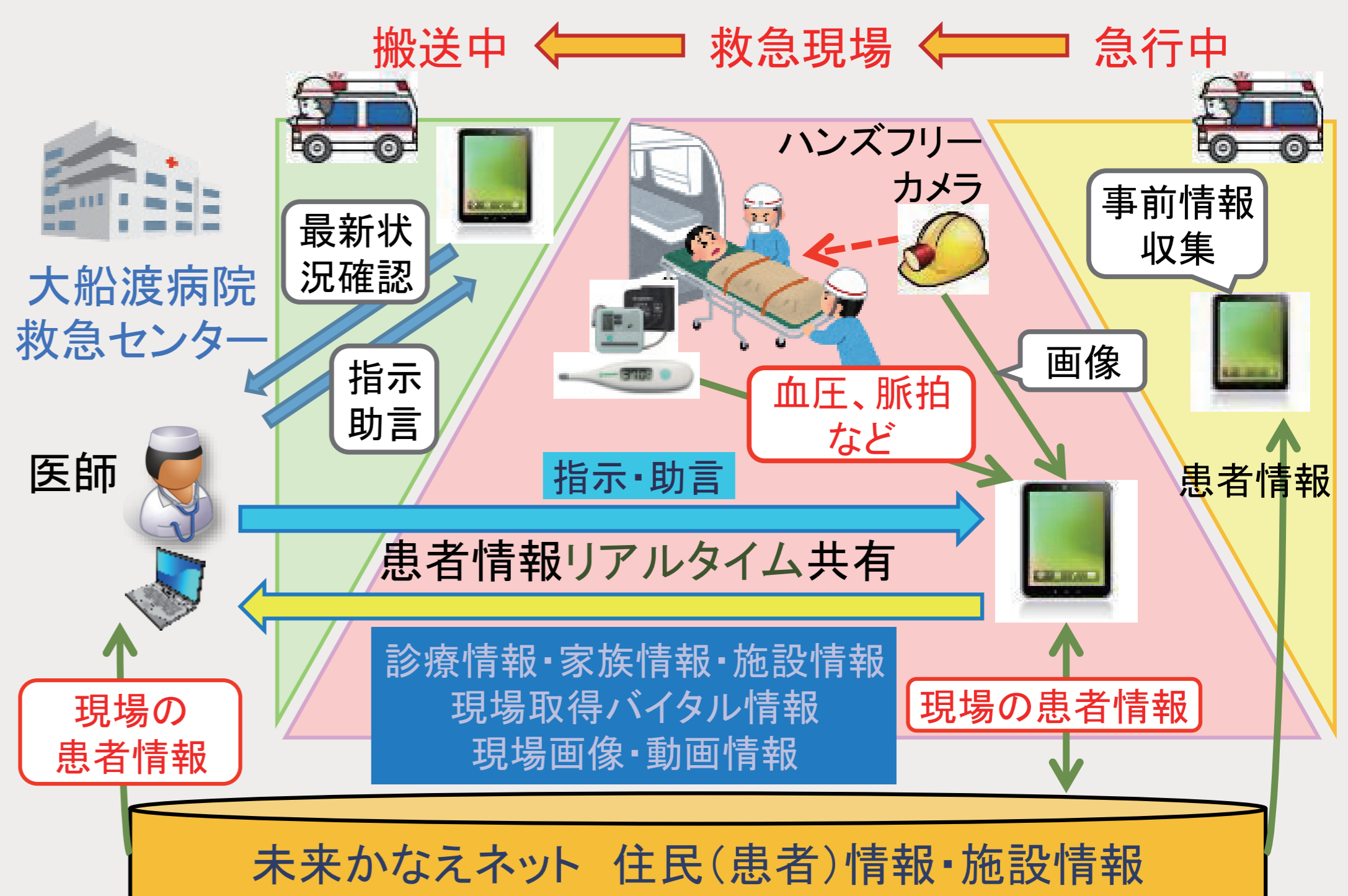


- ・未来かなえネット(地域医療介護情報ネットワークシステム)の運営
- ・地域介護力強化の取組
- ・その他超高齢社会に対応する事業

「未来かなえネット」の概念図



「未来かなえネット」の救急活用

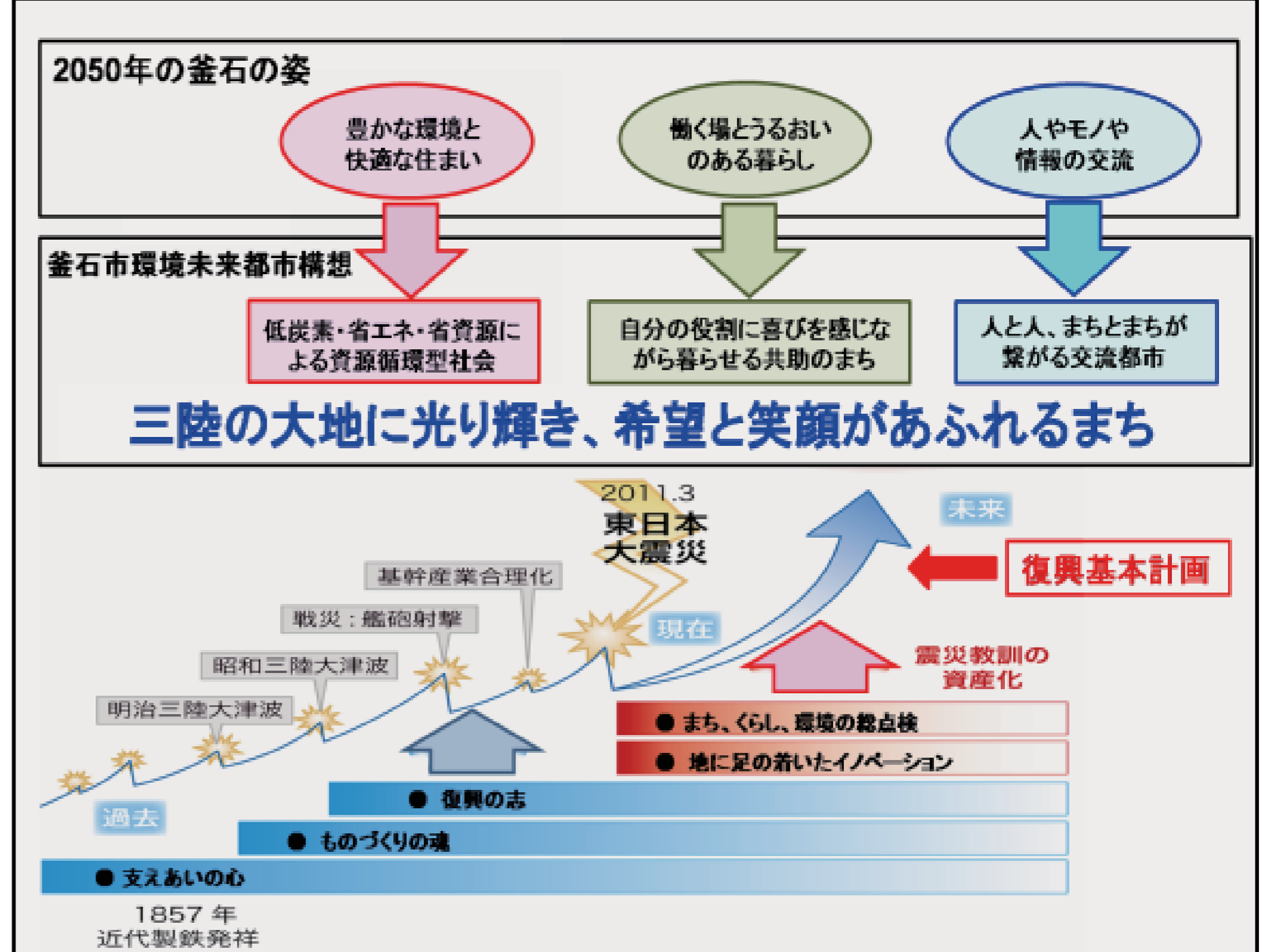


釜石市について

- ・人口:約36,000人
- ・面積:440.34km²
- ・森林率:89.2%
- ・主な産業:工業(機械製造業)、水産業



釜石市環境未来都市構想



SDGsを適用したオープンシティ戦略の改定

環境未来都市構想の経緯・成果を踏まえつつ、市まち・ひと・しごと総合戦略「釜石市オープンシティ戦略」の改定作業にSDGsを組み込んでいくことで、

SDGs未来都市を目指す。

環境未来都市構想

- ・スマートシティ創造への取組
- ・地域包括ケアの推進
- ・フィールドミュージアムの展開



オープンシティ戦略

- ・Airbnb社との連携による民泊推進
- ・市民参加型観光体験プログラム「Meetup Kamaishi」
- ・移住・起業支援「ローカルベンチャー」
- ・高校生キャリア教育「釜石コンパス」
- ・潜在労働力の掘起し「ごきんじょぶ」「プチ勤務」
- ・半官半民のコーディネーター「釜援隊」

法政大学川久保研究室との協働研究



2017.5.18 市長ヒヤリング

民間企業によるSDGs推進

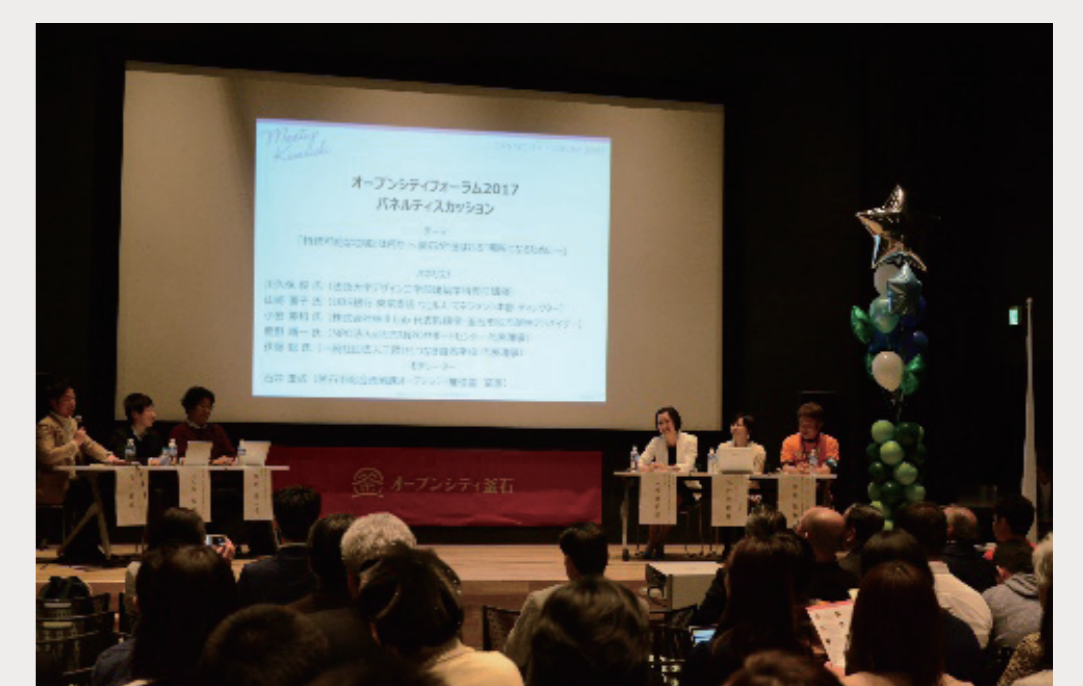


男女共同参画の視点



男女共同参画まちづくり市民大学

市民への浸透



2017.3.18 オープンシティフォーラム
SDGsから見る持続可能な世界と地域

多様なつながりを育み、誰もが自己決定を実現できるレジリエントな地域社会へ

岩沼市について

- ・人口:約44,300人
- ・面積:60.45km²
- ・観光地:竹駒神社、千年希望の丘など

竹駒神社



▲(日本三稲荷のひとつ)

千年希望の丘



▲(丘は震災により生じたガレキの一部を再生活用して整備を行っている。右の写真は、園路に苗を植える植樹祭の様子)

将来ビジョン

人と環境に優しい、そこに「住み続けたい」と思えるコミュニティを再構築する。

- 暮らしの安全
- ・集団移転
 - ・ICTを活用した情報化促進

- 津波からの防御
- ・千年希望の丘
 - ・市道の高上げ
 - ・防潮堤
 - ・貞山堀堤防の高上げ

- 自然環境との共生
- ・千年希望の丘
 - ・太陽光発電と蓄電池を活用したエネルギーマネジメント

エココンパクトシティの形

- 津波への危機管理
- ・千年希望の丘
 - ・避難路の整備
 - ・ICTを活用した情報化促進
 - ・電源の安定供給

- 雇用の創出
- ・健康医療産業集積地等の整備
 - ・アグリビジネス創出

- 伝承・防災教育
- ・千年希望の丘

特徴的な取組の概要



住民が主体となって進めた、東日本大震災の被災地初の大規模「防災集団移転」(「まち開き」を平成27年7月に実施)



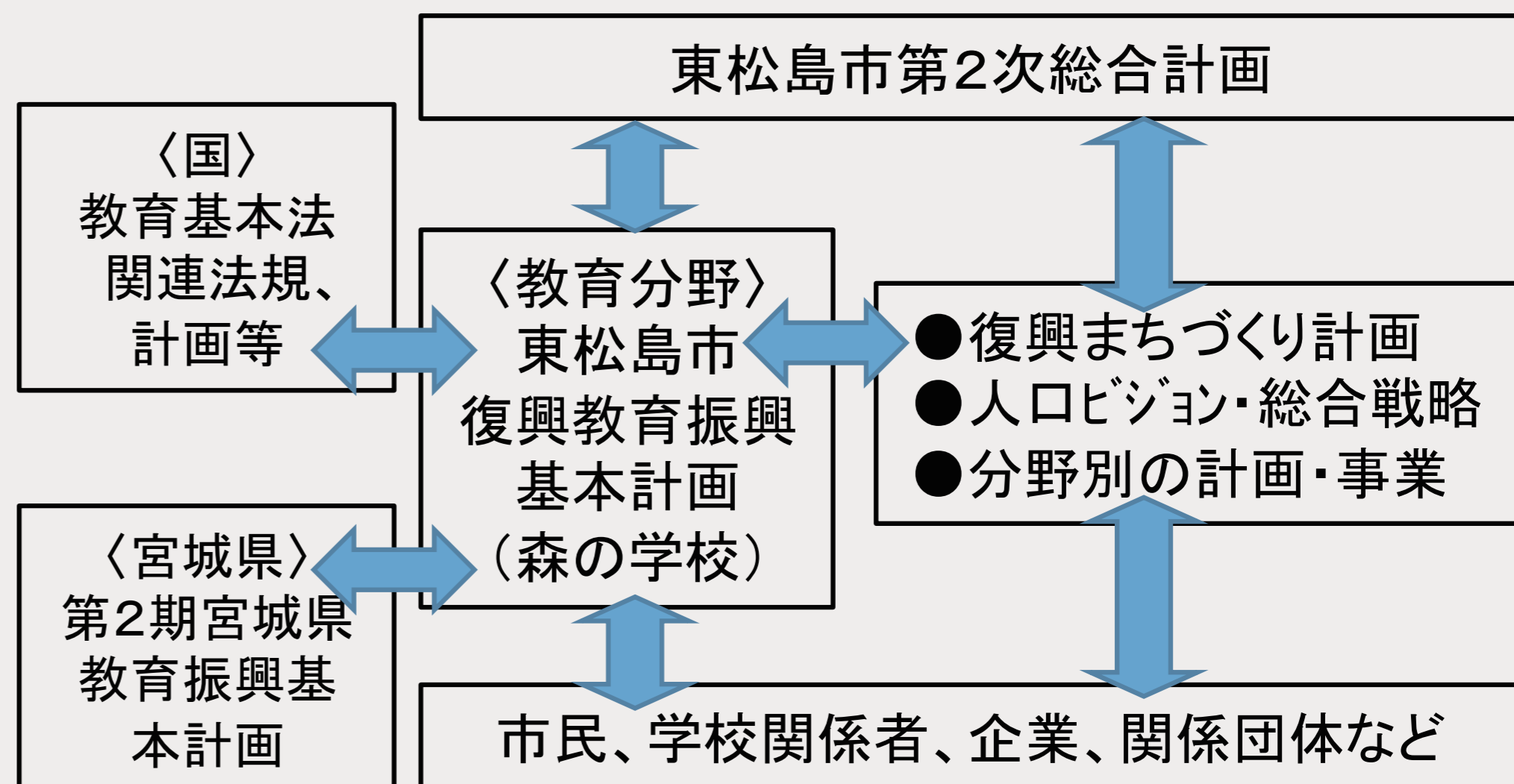
東日本大震災による地盤沈下等で、再生が難しい農地を活用した被災地最大級のメガソーラー

東松島市について

- ・人口: 40,189人
- ・面積: 101km²
- ・主な産業 漁業、農業、観光業
- ・地域の特性 松島基地ブルーインパルス



東松島市復興教育振興基本計画



3つの行動目標

- (1) 次世代を担う人材を育成するまち
- (2) 誰もがいきいきと学習し、活動できるまち
- (3) 多様な交流が充実したまち

森の学校を体現する「宮野森小学校」

C.W.ニコル・アファン財団、宮城大学の協力の下、決定した。
「森の学校プログラムの基本コンセプト」

- 想**う 自然とふれ合うことで生命を敬い、思いやりのある心を育てます
- 憩**う 森や海で憩うことで、のびのびとした心を育てます
- 学**ぶ 体験を通して学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力を身に付けます
- 愛**でる 活動を通じて故郷を知り、郷土愛あふれる子どもたちを育てます
- 繋**ぐ 学校と地域がつながり、地域ぐるみで子どもたちを育てます

■宮野森小学校

平成29年1月から開校、国産木材を使用したオール木造校舎である。



■復興の森

宮野森小学校の背後地を学習活動フィールドに。



4 質の高い教育をみんなに



11 住み続けられるまちづくりを



15 陸の豊かさも守ろう



12 つくる責任 つかう責任



17 パートナーシップで目標を達成しよう



南相馬市について

- ・人口：約61,900人
- ・面積：398.50km²



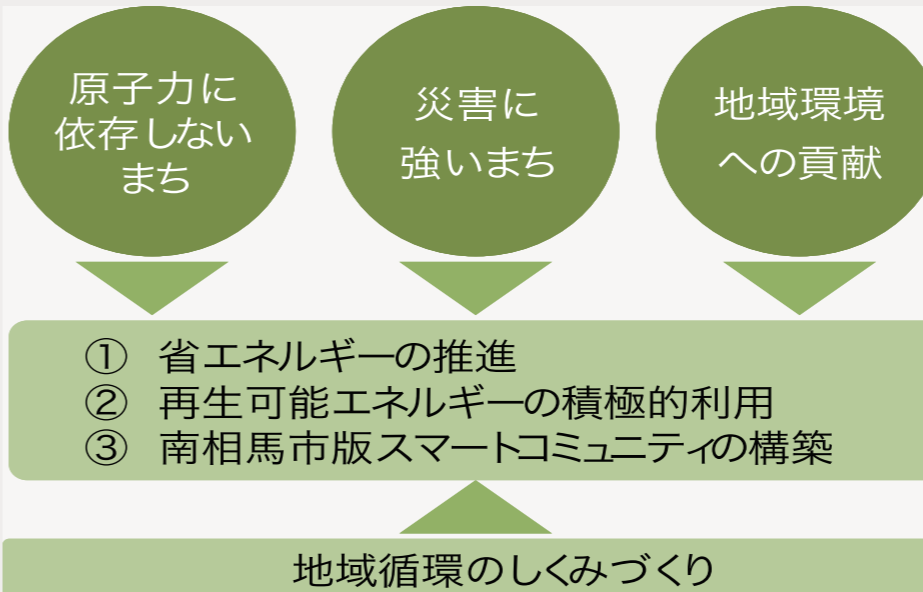
豪華絢爛で勇壮な戦国絵巻「相馬野馬追」
和洋折衷な揚げ餅菓子「凍天(しみてん)」



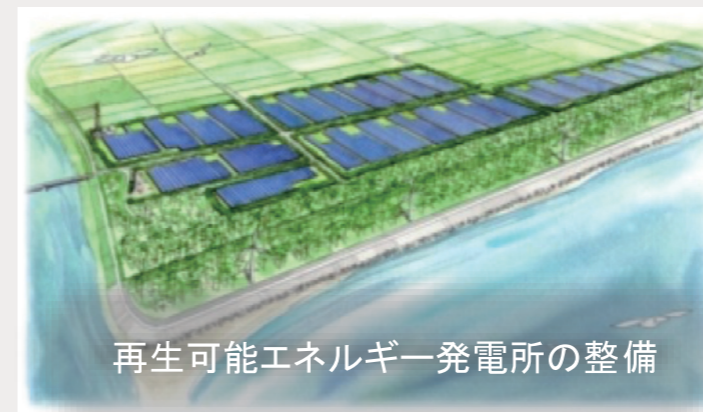
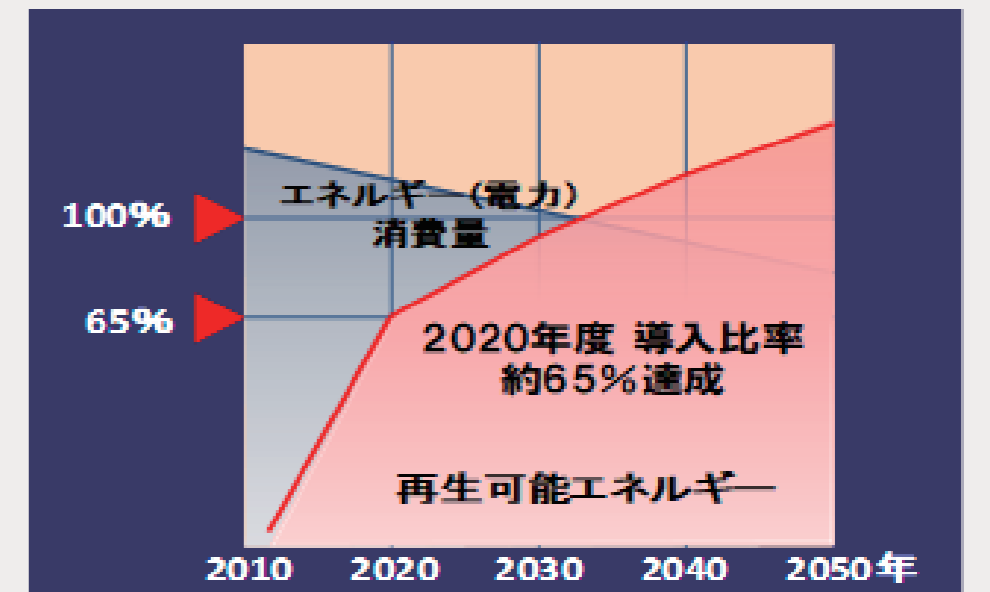
南相馬市再生可能エネルギー推進ビジョン

再生可能エネルギーの地産地消により、
地域循環のしくみづくりを推進。

ビジョンの基本方針

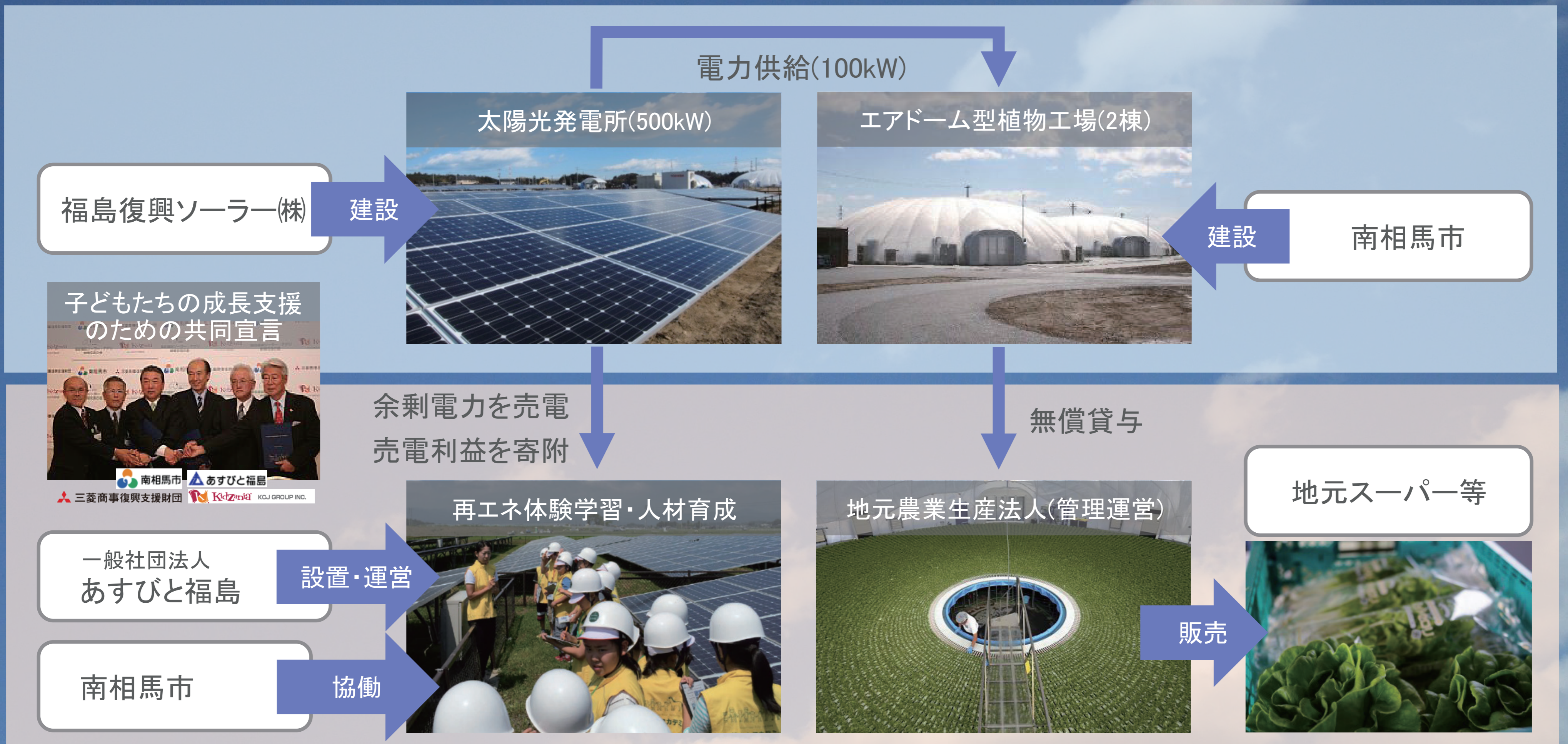


再生可能エネルギーの導入目標



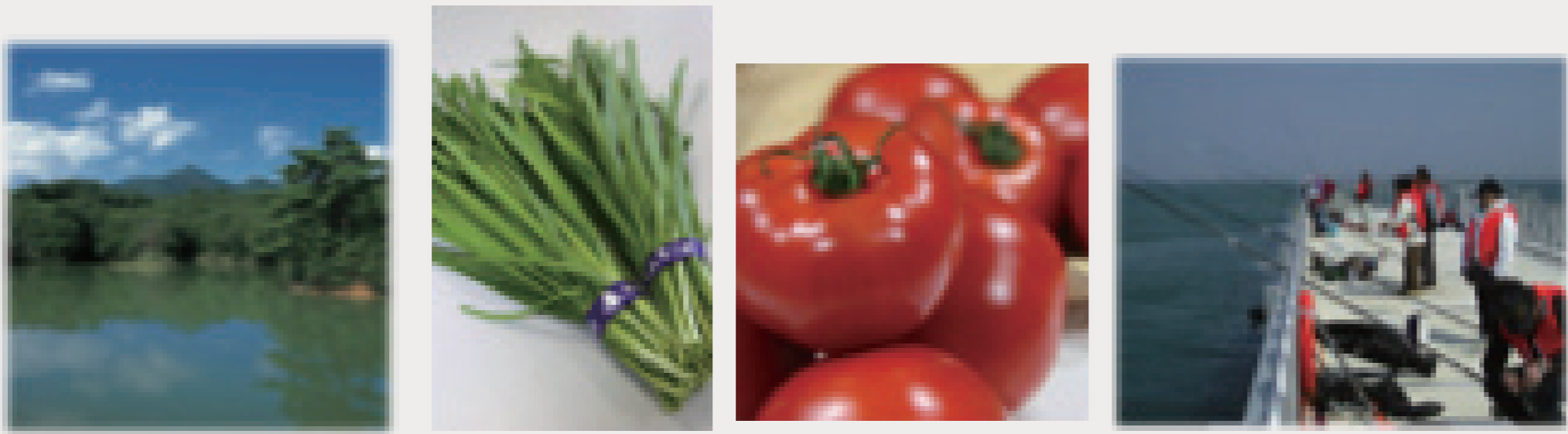
南相馬ソーラー・アグリパーク事業

太陽光発電所・植物工場・体験学習の組み合わせ
による地域循環モデル事業として官民協働で整備。



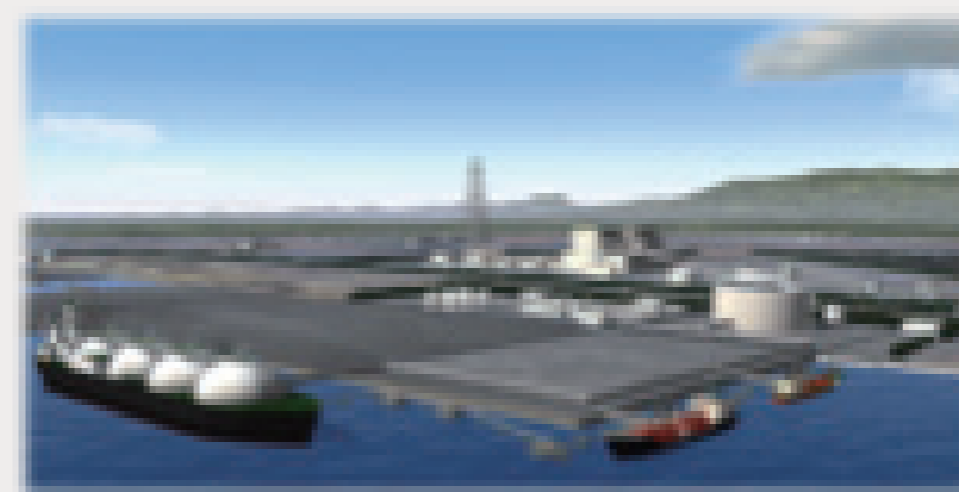
新地町について

- ・人口: 8,260人
- ・面積: 46.53km²
- ・主な産業: 農業、電気
- ・特産品: ニラ、トマト、いちじく
- ・町の花木鳥魚: 桜、松、キジ、カレイ



第5次新地町総合計画後期基本計画

『自然と環境と共生する安全安心なまちづくり』: 自然エネルギーや地域エネルギーを活用し、町内のエネルギー利活用と効率化を図り、環境共生型のまちづくりを推進します。



新地町スマートコミュニティ事業の概要

多様な地域分散・自立型エネルギー供給による「スマート・ハイブリッドネットワークの構築」

地域エネルギーや高齢化コミュニティに関連する双方向型の情報ネットワーク基盤を構築、地域内での情報の共有を推進し、地域で連携する省エネルギー行動の促進と、高齢者サポートを含む暮らしの復興を支援。



新地駅周辺まちづくりと地域エネルギー事業
駅周辺の復興まちづくりと一体的にスマートコミュニティ導入事業を展開。相馬港のLNG天然ガスを活用し、コージェネレーションシステムにより駅周辺施設へ熱と電気を供給するとともに、農業生産施設へCO₂を供給をする自律分散型・地域エネルギーシステムを構築中。

